

Do Our Best!

栗生小学校
5 年学年通信
第 31 号
令和 5 年 3 月 6 日

いよいよリーダーへ!

3月1日に6年生を送る会を行いました。5年生は6年生に今までの感謝の気持ちをこめて、思い出劇とリコーダーの演奏をプレゼントしました。練習期間は短かったですが、一人ひとりが6年生に喜んでほしいという思いをもって、休憩時間や家で練習を重ねていました。

6年生を送る会では、これまでたくさん助けてもらい、頼りにしていた6年生が卒業してしまうのだと改めて感じさせられたようです。同時に、「次は自分達だ」というやる気も芽生えたように感じました。大好きな6年生が卒業してしまうのはさみしいですが、次のリーダーとして6年生の大きな背中を目標にがんばってほしいです。



今日、六送会がありました。私の六送会の目標は「感謝を届ける」でした。不安もあつたけれど、不安なまま発表しても6年生に感謝が伝わらないと思い、自信をもって臨みました。5年生の発表は、みんなやる気があつてがんばろうとしているのが伝わってきました。6年生もここにこして発表を見てくれたので嬉しかったです。

今日の六送会は児童会役員として初めての大きな仕事でした。状況に応じて動きを変えるのが大変だったけれど、五人で声をかけ合いながら進めることができました。「今まででも、こんな風に6年生が行事をサポートしてくれていたんだな」と感じました。これからは、私たちがそれを引き継いでよりよい栗生小学校を作っていきたいです。そして、今の6年生のように地域の方や先生、下級生から頼られる6年生になりたいです。

五弓 陽菜乃



6年生の卒業が近くなり、今日はいよいよ六送会でした。私は、6年生と過ごしたこの5年間でたくさん6年生のお世話になりました。行事では一緒に活動したり、練習したりすることも多かったです。それだけ感謝の気持ちもたくさんあります。その気持ちをしっかりと届けられるように発表をがんばりました。

校長先生のお話や、先生方のメッセージ、他の学年の発表を聞いて、改めて6年生はすごいなと感じました。私はたくさんの人からしたわれ、尊敬されていた6年生をそばで見上げていただけでした。次の6年生は私たちだけけど、今の6年生をこえるのか少し心配です。でも、これからは6年生をこえられるようにどんどん成長していきたいです。そして、もうすぐ卒業して会うことも少なくなってしまふ6年生への感謝の気持ちを忘れず、残りの時間を大切にしたいです。

貞信 実里



ぼくは六送会でとてもきんちょうしました。だけど、セリフもしっかり言えたり、リコーダーも上手くふけました。5年生の発表が終わった後、6年生の発表を聞きました。6年生のリコーダーの演奏は、とても上手で「ぼくも6年生をこえる演奏ができるようがんばろう」と思いました。

6年生が退場するとき、「6年生は本当に卒業して、ぼくたちが最高学年になるんだな」と改めて感じました。この5年間は6年生に助けてもらってばかりだったので、四月からはぼくたちが下級生を助けてあげないといけないという気持ちが強くなりました。少しずつ栗生小学校を支えていけるようになります。一人で学校を支えることはできないけれど、5年生みんなで協力すればできると思うので、6年生に安心して中学生になってほしいです。

加茂 太樹



今日、六送会がありました。ぼくは、「しっかり6年生に感謝が伝わるいいな」と思っていました。5年生の発表の時、5年間でお世話になったことを思い出しました。自分の番では、しっかり6年生に思いが届くように発表できました。「栄光の架け橋」の演奏では、今までで一番いい演奏ができたと思います。発表が終わったとき、「6年生は本当に卒業してしまふんだな」と改めて感じました。まだ、6年生がいなくなる実感がわきません。

6年生が退場するとき、花のアーチで見送りました。「四月からはぼくたちが最高学年だ」という思いが強くなりました。これから、学校をしっかりと引っ張っていけるリーダーになりたいです。

甲斐 悠一郎